弓削通信 フェニックス

2014.4.15 №47（通巻174）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

ほんとうに久し振りに投稿を戴いた！

消印は今治局3月31日。発信人不明。封緘には女子ヌードのシール。沢山の手がかりがあり、推理の楽しさを味わえる一通。

ご意見いただきました

＜ふり返ってみる弓削通信＞

現・弓削通信フェニックスの前身「弓削通信」は1991年（平成3）6月、合併前の弓削町で、町民の声を公開する目的で創刊されました。つまり投稿紙です。投稿については自由テーマながら連絡先等の記述は必須。ただし筆名、匿名は応相談ということでした。

当時はバブル経済最終段階で、現・上島町を構成する各町村はリゾート開発の誘致に血眼になっていました。地域活性化にはリゾート開発しないという論調が町を覆っていました。しかし環境保全のための法整備が未熟なまま農薬による瀬戸内海の環境汚染、乱開発による自然の崩壊、経営が成り立たなくなれば放置される、等々の理由で地権者の大方の同意が得られず、そうこうしているうちにバブルがはじけ、潮の引くようにリゾート開発熱は終息したのでした。

誰も責任を取らない

問わない不思議

多くの公金が誘致活動には使われました。行政の責任者、誘致活動をした人々、だれも責任を表明したりとったりはしませんでした。

日本の地方自治体で一度仕掛けた大きな政策が頓挫してもなんら責任を感じたり取る必要がないことを世間に知らしめたのもこの頃でした。その姿勢は今でも連綿として続いています。合併後の上島町が筆頭株主である3セク「生名スポレク」で女子事務員による多額の横領事件が発生しても、当人の馘首だけでことを済ませたように・・・。

そういうお上の有り様に、陰で不満を述べても公論にはならないと、投稿紙創刊を思い立ったのでした。

以来様々なテーマ、切り口、話題で記事を掲載してきました。毀誉褒貶相半ばして丁度よし、というのが筆者のスタンスです。

口ばかりと揶揄されるのも癪なので、議員選や町長選にも出、むしろ出なかったら選挙すら無かったというケースの方が多いのが事実です。

懐かしい

赤胴鈴ノ助時代の正義感

かく元は投稿紙が出自ですので読者の皆さんからの投稿、お便りは喜んで掲載させていただく。ただし、です。男なら、あるいは女なら（これも差別的発言と言えなくもないですが）ご意見の身元は明らかにされたい。そのうえでなら、匿名、筆名にも応じます。

この度は例外的に発信人不明の投稿を掲載します。物事にはいろんな受け取り方があるものだと、改めて感じたからです。読者の皆さん方の活発な論議が生まれることを期待します。

「船乗りの島・弓削島」展

ご好評につき南氷洋商業捕鯨時代の有様を、上弓削・潮湯にて4月8日より2回目の展示中。

4/20(日)は弓削島通

きどぐち 四七

青木喜代子

「薪ストーブつけて！」「はあ？」出たとこ勝負、泣く子もだまるB型嫁の奇怪な言動には慣れている筈の夫がこのときばかりは何を言ってるんだい！の「はあ？」だった。そりゃそうだ。リフォーム前ならまだしも、居間のそれは順調に進んでいる今頃になって・・・。夫は静かに言った。「あのね、簡単に言うけど薪の段取りは？木を山から下ろすのも大変ですよ」と。

その夜B型は考えた。確かに夫の言うとおりだ。翌朝、夫に「やっぱりストーブ止めよう。私には薪の段取りも出来ないし、うん、いい。諦める」

すると夫が「いいよ。楽しもう。薪がない時は灯油がある」

了解してくれた夫に感謝。感謝。で数日後、可愛い薪ストーブが居間に収まった。

実に暖かく、チロチロ燃える火をながめているだけで幸せ。何と言っても燃料費ゼロは魅力。先日廃材がダンプ二杯届いた。夫は大枚を持ってチェンソーを買いに走った。休日には薪割り作業をした。

そばで見ている私に「やってみる？」「は～～い！」ところがである。上手くいかない。夫が「簡単そうに見えてなかなかでしょ」しかしここで引き下がっては大きな顔をしてストーブにはあたれない。やっとの思いでコンテナ一杯半。たったこれだけで手がしびれた。

昨日、近所の母子連れに「ねえ、薪割りの体験どう？」と声をかけると娘の方が「やりたい！」

顔を赤くして挑戦。どうにか四つ割になり「私、この木のにおいが好き！」って。

夫の言う楽しみながらは、こういう事かも。みなさまもよかったら薪割りを・・・。

因島 芸予文化情報センター
第66回カンヌ映画祭審査員賞受賞
そして父になる

6年育てた子は病院で取り違えられた他人の子だった。

福山雅治　尾野真千子
真木よう子ほか
監督・是枝裕和
日時5月16日（金）
①10：30～
②14：00～
③19：00～
一般999円　ペア1800円　大学生以下500円
主催・因島映画鑑賞会（問い合わせ090-2008-2938青木）後援・尾道市、尾道市教育委員会

おすすめ図書

「君臨する原発」

中日新聞社会部　東京新聞発行
@1,500 円＋税
●福島原発事故をどう考えるか。経済のグローバル化の正体。そのことで人々は決して幸福にはなれないと知る書。

弓削通信 フェニックス

2014.4.15 №47（通巻174）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

議員活動録

（16）議会議員　平山和昭

◆4月1日、議員と町長宛に厳しいご意見が届きました。消印は今治局。差出人は不明◆

上島町長及び上島町議会議員　殿

日頃より町政進展のため努力されている事と存じ上げます。しかし、最近の町政、特に議会運営はどう見ても異常としか思えません。定例議会等の度に新聞沙汰になり一町民としても恥ずかしい限りであります。大勢の負託を受けている町長、議員も、その責任の重さをもっと自覚してほしいものです。

今回の国体関連予算の問題でも軟式野球競技が上島町で行われる事を知らず昨年国へ要請を上げたとの事、あまりにもお粗末！

また当初予算の絡む大事な議案でありながら、議決前に全員協議会も委員会も開かれず修正だの否決だの議会運営もどうなっているのですか。信じられません。

私は二年前現職町長を支持した者ではありませんが、前回選挙のしこりがいまだに尾を引いているとしか思えません。町と議会は両輪であり町長派・反町長派とかのレベルで衝突するのではなく、町民のために、地域の発展のためにもっと胸襟を開いて是々非々で議論を深めて頂き四町村で合併して良かったと思えるような町づくりに励んで欲しいものです。

もうこれ以上我が町の恥をさらすのはやめて下さい。これからも時限の低い足の引っ張り合いが続くのであれば、町、議会併せて出直し選挙を行ったらどうですか。その時は当然合併協議の申し合わせ通り全町一区で行って下さい。

長々と苦言を申しましたが私が切に願うのは死ぬまで大好きな上島町であって欲しいだけです。

合併3期目になり、議会にあって当初予算の否決や修正が相次ぎ、都度新聞ネタにもなりました。

議員も首長も自治体住民のうち有権者による選挙で選ばれ、自明のことながら選挙後のそれらの人々を、行政の長として、あるいは議会議員としてどう判定するかは有権者の仕事です。

この手紙は議会議員全員に送付された模様ですが匿名なので返事不要、発信者も文書に関する権利はないことになります。しかし、例えばこの通信のような議員の個人的報告の場で発行者の責任に於いて公表し有権者の皆さんと共に考える資に供することはできるでしょう。よって供します。

手紙にある様に、議員の未熟さもあるかもしれませんが理事者の側にもその因を求めることができます。そのあたりをどの程度把握できてのことかもわからないながら、それぞれの議員が何を目指しているのか、いないのかを勘案して、なお不適任だとなれば、有権者の権利としてリコールという制度の行使を真剣に考えてもおかしくはないと思います。それを首長や議員にやれというのはおかしいです。

過去我々の自治体に於いてリコールが実施されたとは寡聞にして承知していませんが、もしそれが実現出来たとすれば、長年、住民自治気運の醸成こそ大事でると活動してきた筆者にとっては、望外の喜びということになります。頑張って実現していただきたいものです。

【リコールについて】

国または地方公共団体の公職者を国民または住民の発意と投票によって罷免する制度。本来は選挙制度の意義を補う選挙の事後手続として公選職に対してのみ適用される制度であるが，これを任命職に対してまで拡大して適用している例もある。日本についていえば，地方公共団体の住民に認められている直接請求のうちの解職請求の制度は，公選職と一定の任命職とに対してリコールを採用している。

また最高裁判所裁判官の国民審査(憲法七九条)の制度は，国民の発意をまたずに投票に付される点で，変則的であるがリコールの一種といえる。（世界大百科事典）

りんさんと島婆（しまんば）

［4］　野原フミ

春の瀬戸内の島々には島四国（しまじこく）という行事があります。四国八十八カ所（ふだしょ）のミニ版。どこの島にもお大師様の札所である四国の寺々の名を自分たちの住む島にあてはめて巡礼のお参りをするのです。お寺をはじめ小さなお堂、道端のお地蔵小屋まで島中を歩く行列はとぎれることなく続きます。家族連れや知り合いどうし、白装束のお遍路さんの一行もあってふだんこんなに島の道がにぎやかなことはありません。

子ども達は朝早くからお参り用にお米や一円玉を小袋に入れてもらって出かけます。この日の子ども同士の約束がここでの親離れの一歩なのです。

札所のお大師様にお参りしてからお接待がいただけます。接待役は主に地元のおばあさんやおばさんです。「ようお参りくださいました」と笑顔で迎えてくれます。祖母も朝から近くのお寺で接待役です。

明日海（あすみ）も前の日から島にやってきて祖父と歩きました。久しぶりに会う人にあいさつをかわしながら道ずれもできました。お菓子を並べたお堂では四、五人のおばあさんたちがお接待していました。明日海は何か気になってそちらを見ると、奥の方に隠れるようにしている人がほわっと明るいのです。明日海の手がポケットのものをさわっていました。もしかして、りんさん？そこには笑顔のみんながいました。

おにぎりをお接待してくれたお寺でポケットをさわると、何人ものエプロンのおばさんの中にりんさんを見つけました。りんさんのいるところ笑顔があり、やさしさいっぱいのおもてなしをされていました。不思議なことに他のお寺やお堂でも、りんさんを見かけるのです。

りんさんて誰だろう。どうしてどこの札所にも居るんだろう。

次を目指して歩きだすと小高い山道の途中に小さなお地蔵さまが並んでいました。そこにたった一人いたのは、りんさんでした。

「たくさんの島婆（しまんば）に会えたでしょ」

りんさんはほほえみながらいいました。

「うん。あ、そうだ。お接待をいっぱいもらったから、お礼にこれあげる」

明日海はポケットから虹色のウロコをだして手わたしました。

「ありがとう。またあいましょう」

りんさんは朝の浜辺ではじめて会ったときとおなじに風のようにいなくなりました。

その山道から海が見えました。ひとすじの虹色の波が沖の方へと動いていきました。

明日海はお菓子でふくらんだ手さげをもって祖父と帰ってきました。お寺から帰ってきた祖母は、りんさんとそっくりの笑顔でした。

山には山姥（やまんば）おるそうな
島には島婆（しまんば）おるらしい
婆（ばば）という字は波（なみ）おんな
しまなみ女は島婆（しまんば）じゃ
ほっほっほ　・・・

（おわり）

やよみ停
【映画研究会】

4月15日（火）午後7時～無料

「ワンダフルライフ」

人は死んで天国の入り口でこう言われる。「あなたは昨日、お亡くなりになりました。ここにいる間にあなたの人生を振り返って大切な思い出をひとつだけ選んで下さい」

選ばれた思い出は職員たちの手で撮影され、最終日には上映会が開かれるという。監督：是枝裕和　主演：小田エリカ、ほか。